

【キーワード】

〔施設種別〕 ■高齢者施設 ■障がい者施設 ■子ども施設 □住宅
 〔運営主体〕 □市区町村 □法人 ■NPO □個人 〔補助金〕 □内閣府 □国土交通省 □厚生労働省
 〔建物形式〕 ■1棟単体型 □複数棟集合型 □団地型 〔建物状況〕 □新築 □増築 □改修 ■一部改修 □既存
 〔対象者〕 ■高齢者 ■障がい者 ■子ども ■ファミリー ■多世代



写真 1. 外観写真

ひなたぼっこは「赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず1つ屋根の下でみんなで一緒に過ごす」ことを理念とする「富山型デイスサービス」を行う施設。開所日には多くの人が利用し、互いに支え合いながら活動をする大家族のような雰囲気である。

■施設概要

所在地：東京都江戸川区南葛西1丁目1-1

施設種別：

運営主体：NPO 法人 江戸川・地域・共生を考える会

運営開始：平成24年6月

開所日：毎週水・金曜日 毎月第3日曜日

開所時間：10時～14時

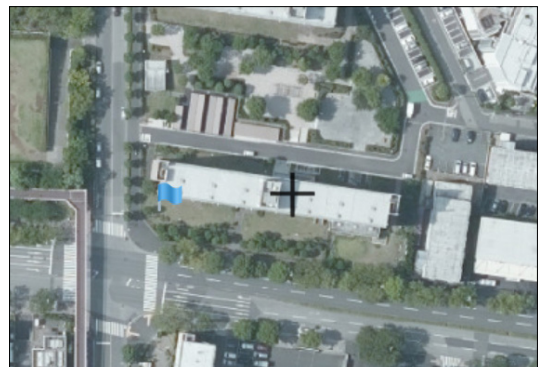


写真 2. 敷地周辺 国土地理院より引用

東京メトロ東西線 葛西駅より都営バスを利用

葛西南高校入口下車 徒歩8分

東京メトロ東西線 西葛西駅より都営バスを利用

葛西南高校前下車 徒歩4分

■全体概要

「一緒にいいね ひなたぼっこ」は、人と関わること、特に障がいを持つ弱い立場の子どもと関わるのが好きであった代表が「赤ちゃんからお年寄りまで、障がいの有無に関わらず、1つ屋根の下でみんなで一緒に過ごす」ことを理念とする「富山型」と出会い、富山型サービスの原点である「このゆびと一まれ」を見学した際に、この活動を自分も行いたいという思いから開所された。

「富山型」は、高齢者や子ども、障がい者など、様々な属性の人が利用するため、注意する点が多く、利用者は少数の方がよいとされるが、「ひなたぼっこ」では「利用者が多く大家族のような関係、それがいい」という考えの下、開所日には多くの人が利用している。スタッフは全員ボランティアで、区や地域住民、利用者の保護者などに支えられながら活動している。



写真 3. 昼食の様子

多くの方が利用し、自由環境で机を囲みながら食事をする。

参考文献

- 1) 一緒にいいね ひなたぼっこホームページ
(<https://edogawa-hinatabokko.jimdofree.com/>)
2021年1月5日参照
- 2) 江戸川区あったかハウス 江戸川区ホームページ
(<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/e039/kuseijoho/gaiyo/shisetsuguide/bunya/kenkofukushi/fukushi/attakahouse.html>)
2021年1月5日参照



写真4. バスハイク（公式 HP から引用）

毎月の遠足イベントには、普段よりも多くの人が参加し、利用者にとって楽しい活動となっている。

■運営概要

"ひなたぼっこ" は毎週水・金曜日、毎月第3日曜日に開所され、水曜はヨガなどのイベントを行っているが、特にカリキュラムを設けず、それぞれが自由に過ごし、食事の際には皆で机を囲み、笑顔溢れる場となっている。日曜日は子ども食堂として開所され、平日の開所日より多くの方が利用し、賑わっている。日々の活動のほかに毎月、八景島や動物園などに遠足に出かけ、利用者の楽しみなイベントとなっている。クリスマス会や音楽会といった大きなイベント年に数回行っており、このイベントには普段の利用者のほかにも多くの方が参加し、50人～100人にもなることがある。

"ひなたぼっこ" では、通りすがりの地域の方がお茶をしていくことや、庭にある畑でできた野菜をもらいに來るなどといった、地域に開いた縁側のような場所となっている。"ひなたぼっこ" の代表は、子どもたちが安全に登校できるように10年以上通学路で旗振りをしており、普段の活動の他にも、地域のために積極的に活動しており、地域の方から頼られる存在となっている。

施設案内図



図1. 簡易平面図（江戸川区あったかハウス 江戸川区ホームページより引用）

元々倉庫として使用されていたマンションの1階部分を、江戸川区が福祉的目的で活動する団体に貸し出すために改修。スロープの設置や、トイレの整備などハード面でのサポートがされている。

■利用者の活動と変化

"富山型デイサービス"を行う"ひなたぼっこ"では、高齢者や子ども、障がい者など様々な属性の方が利用している。

利用者の一人の自閉症を持つ方は、利用を始めた頃、多くの利用者がある居室には行くことができず、ご飯の際も、スタッフと2人で食べるなどをしていたが、通い続けることで、居室で利用者方と一緒にご飯を食べることができるようになった。この方は、親戚の集まりでもリラックスすることができないとのことだったが、"ひなたぼっこ"では、利用者のいる空間で昼寝をするなど、落ち着く場所となっている。また、開所日にはカレンダーに○を付け、楽しみにしているとのことで、"ひなたぼっこ"が心の拠り所になっている。

子どもたちが遊び始めると、高齢者の方も参加し、かるた遊びでは、初めは何気なく参加していた高齢者の方が、徐々に本気になり、前傾姿勢で楽しみながら子どもたちとの交流がとられていた。その他にも、縄跳びの跳んだ回数を数えてあげるなど、様々な場で交流がとられていた。

"ひなたぼっこ"に通うことで、多くの人と関わり成長し、楽しみながら活動しているため、利用者にとって心の拠り所のような場所となっている。

■建築的特徴

ひなたぼっこは、元々災害時のための倉庫として利用されていたマンションの1階を、区が福祉目的で活動する団体に貸し出ため改修を行い、ハード面でのサポートがされた場所で活動している。

改修としては、玄関スロープの設置や、車いすの方が利用しやすいように広めな空間で、扉は折り戸となっている。また、キッチンと主な活動を行う居室スペースでは、室内窓が設置され、キッチンで調理しながら利用者の様子が見られるようになっている。

施設内のおもちゃや本の多くは、地域の方から寄付されたもので、多くの支えの下、活動していることがわかる。



写真5.かるた遊び

高齢者や子ども、障がい者みんなで楽しみながら遊び、交流する様子。



写真6.畑作業

サツマイモなどを"ひなたぼっこ"の庭で作っている。地域の方との交流の場ともなっている。



写真7.スロープ

倉庫を福祉目的で活動する団体に貸し出す場所にするためスロープの設置等の改修がされた

■展望



写真8. 室内窓

キッチンからも活動の様子がみられるように、室内窓が設置されている。



写真9. 活動空間

畳スペースなど利用者に合わせた空間が設けられている。施設内の本や家具の多くは寄付されたもの。

より多くの方に利用してもらい、富山型良さを知ってもらうことで、新たな関係を築き、一緒に働いてくれるスタッフを見つけいきたい。

近い将来事業化し、"ひなたぼっこ"を心の拠り所とする障がい者を持つ子どもたちが成長した時に、働く場となるようにしていきたい。

(以上、作成者：・・・東京電機大学 土屋駿平,2021.1.5)